

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第4回フォーラム研究会
議事録

日時：平成26年6月10日（火） 13：00～16：00

場所：パブリック・アウトリーチ本部事務所

出席者：15名（順不同・敬称略）

木村（PONPO）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、
大石（PONPO）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、
崎田（元気ネット）、渋谷（元気ネット）、竹中（PONPO）、中岡（元気ネット）、丸山（PONPO）、
諸葛（PONPO）、第1期フォーラム参加者

配布資料

- F4-0. 議事次第
- F4-1. 第3回フォーラム研究会議事録案
- F4-2. 第1回フォーラム反省会メモ
- F4-3. 第1回フォーラムに関するアンケート集計結果（主に自由記述）
- F4-4. 第2回フォーラムスケジュール表（運営者版）
- F4-5. 第2回フォーラムスケジュール表（配布資料版）
- F4-6. 第1回フォーラム模造紙まとめ
- F4-7. ブレーンストーミングの進め方
- F4-8. グループワークの進め方（案1）
- F4-9. グループワークの進め方（案2）
- F4-10. 模造紙の使い方
- F4-11. 第2回フォーラムに関するアンケート
- F4-12. 第3回フォーラム開催のお知らせ

議題

- 0. 前回議事録確認
- 1. 第1回フォーラムの振り返り
- 2. 第2回フォーラムについて
- 3. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

0. 前回議事録確認（配布資料 F4-1）

木村氏より、資料 F4-1 に基づき、前回の議論の内容が確認された。

1. 第 1 回フォーラムの振り返り（配布資料 F4-2、F4-3、F4-6）

各自が第 1 回フォーラムに関する資料（F4-2、F4-3、F4-6）に目を通した後、第 1 回フォーラムの振り返りを行った。主な意見を以下に示す。なお、議論が展開し、第 2 回以降に注意すべき点についても言及があったが、それは議題 2 に記した。

【運営について】

- ・ グループワークの進め方をしっかり把握していないと、当日臨機応変に対応できない。
- ・ 時間がずれた際には、その対応策をもっとしっかり伝達すべきではないか。
- ・ サブファシリテーターには、グループ全員が 1 人の話を聞いている状況を整えてほしい（グループ内の 2、3 か所で話が同時に進まないようにしてほしい）。記録の観点からも、メンバーが今何をすべきか把握する上でも重要。
- ・ 参加者の発言の趣旨を間違えて書き取ると、その付箋がその後の話し合いに悪影響を及ぼすおそれがある。書き取りは注意して行うべき。
- ・ グループワークのルールに関しては、サブファシリテーターがしっかり指摘すべき。

【参加者について】

- ・ 全体的に、言いたいことを言い切っていない（様子を見ている）方が多いように見受けられた。若い方は特に遠慮しているように思える。
- ・ 時間が足りないという意見が多い。一方で、議論ができて良かったという意見もある。
- ・ フォーラムの意図を把握されていない方もいるのではないかと。
 - ただ、第 1 期第 1 回のアンケート結果と比べると、「フォーラムの意図が分からなかった」という意見は非常に少ない。
 - 毎回、グループワークの前に、フォーラムの目的やコミュニケーションのステップについて確認したい。ホワイトボードにも毎回掲示する。
- ・ まとめようとする気持ちが強く、発表時に焦点になった部分のみ発表し、全体的な流れを説明しない方がいた。
 - 総合ファシリテーターが、「まず全体の流れを説明し、その後議論が集中した部分を紹介してください」などと告知すべき。
 - 発表者 2 人体制を明確にするべき。（詳細は議題 2）
- ・ まだ「コミュニケーションのステップ」の達成度は低い。今後の動向に注目したい。

- ・ 「原子カムラとは何だろうか」に対する意見の多様性は、第1期に比べ、少ない。
→特に、市民側に「分からない」「知らない」という意見がない。原子力に対する意見は母集団に合わせているが、参加者が一般市民の全てを代表しているわけではない点は意識すべき。
- ・ 市民参加者の中には、専門家の言うことを鵜呑みにしてしまう傾向がある方がいるのではないか。今後の動向を注視したい。

2. 第2回フォーラムについて（配布資料 F4-4、F4-5、F4-7～F4-12）

木村氏より、資料 F4-4 に基づき、第2回フォーラムのプログラム案が紹介された。主な注意点は以下の通り。

- ・ キッチンタイマーを活用する。
- ・ 模造紙にはあらかじめ書き込むべきことを書きこんでおく。
- ・ 11時に集合し、まず最終打ち合わせを行う。続いて会場設営を行う。
- ・ サブファシリテーターによる記録が間に合わない場合は、サブファシリテーターが、進行をゆっくりにするようお願いする。
- ・ 全体共有の発表者が1班2人であることを明確にする。具体的には、発表者2人にホワイトボードの前に立つように指示する。1人しか発表していなかった場合は、総合ファシリテーターがもう1人の発表者に補足がないかをたずねる。これにより、1人が自分の思い込みで発表してしまうことを防ぐ。
- ・ 1班6人の役割は、ファシリテーター2人、全体共有1の発表者2人、全体共有2の発表者2人とする。

続いて、資料 F4-8、F4-9 に基づき、グループワークの進め方に関する議論がなされた。

グループワーク全体の流れは、第1期フォーラムの定型に準ずる。すなわち、グループワーク1でテーマについて話し合い、全体共有を行い、休憩時間に他のグループの発表に対し参加者が各自質問を提出し、グループワーク2で質問に対する回答を作り、その後全体に対して回答を紹介する、という流れである。

なお、グループワーク1のテーマは、参加者に決めていただいた「**一般市民と専門家が考える壁の違いとは？**」である。

グループワーク1の進め方について、木村氏より2つの案が示された。

案1は、特に話し合いの方向性を誘導しないという形式である。テーマについて意見を書いて発表する（10分）。貼られた意見に対して意見を言う（15分）。意見をまとめる（15分）。予備を5分設け、計45分で行う。

案 2 は、ある程度運営側でグループワークの流れを誘導するという形式である。時間を 60 分にし、グループワーク 2 の時間を 15 分短縮する。まず市民は「専門家のイメージ※」を、専門家は「市民のイメージ※」を付箋に書き、発表する（10 分）。次に、市民から出された「専門家のイメージ」に対して、専門家が質問やコメントを言う（15 分）。続いて、専門家から出された「市民のイメージ」に対して、市民が質問やコメントを言う（15 分）。最後に、市民と専門家の間にある壁について話し合う（15 分）。予備 5 分。

※フォーラムに参加している市民、専門家に対するイメージではなく、市民一般、専門家一般に対するイメージである。

案 1 は自由に話せる反面、テーマが曖昧なため、意見の強い方の影響を受けやすいのではないかと、案 2 のほうが、何について話せばいいのかという迷いが少なく、話しやすいのではないかと、などの理由から、案 2 を採用することになった。

続いて、案 2 の進め方に関して、詳細な議論が行われた。以下の意見を基に、木村氏により、第 2 回フォーラムのプログラムが再考・決定されることになった。

- ・ お互いが作っている「2 枚の壁」というまとめになるかもしれないし、「実は壁は 1 枚なのではないか」というまとめになるかもしれない。興味深いテーマだ。
- ・ 案 2 をさらに細分化して、市民が持つ専門家のイメージ、専門家から市民はこう思われているのではないかとという予想、専門家が持つ市民のイメージ、市民から専門家はこう思われているのではないかとという予想の 4 つに分けてはどうか。
 - アンケートにおいて、「議論の時間が足りなかった」という意見が多かった。4 つに分けると、作業量が増え、議論の時間がまた足りなくなるのではないかと。
 - 専門家側からは「市民から専門家はこう思われているだろう」という意見が出るのが予想されるが、市民側から「専門家から市民はこう思われているだろう」という意見はなかなか出てこないのではないかと。
- ・ 意見がたくさん出ることが予想されるため、模造紙を 2 枚用いたほうがいいのではないかと。

3. その他

- ・ 第 2 回フォーラムは 6 月 14 日（土）に開催する。運営者は 11 時に集合する。

以上